

## 令和2年度第2回我孫子市総合教育会議 概 要

- 件 名／令和2年度 第2回我孫子市総合教育会議
- 日 時／令和2年11月25日（水）16：00～17：20
- 場 所／教育委員会 大会議室
- 出席者／星野市長、倉部教育長、長谷川教育委員、足立教育委員、蒲田教育委員、村松教育委員、廣瀬総務部長、丸教育総務部長、木下生涯学習部長  
（教育総務課）森田課長、尾高主査  
（指導課）戸塚課長、五十嵐指導主事  
（学校教育課）鈴木課長  
（秘書広報課）飯田参事、高見澤主幹、安武主査長
- 傍聴人／なし
- 協議・調整事項

### 1. 布佐中学校区における現状と課題について

布佐中学校区の現状と、12月から同学校区で実施予定の「学校の適正規模に係るアンケート」について、事務局（教育委員会／総務課、学校教育課）から説明後、意見交換を行った。

（意見交換）

- ・ 秋の市政ふれあい懇談会は、布佐地区のみ開催することができた。11月21日と22日に開催予定だった他の4地区は、新型コロナウイルス感染症の感染状況や、参加者に高齢の方が多いということを踏まえ、中止とした。布佐地区では、布佐中学校区における学校施設のあり方などを含め説明するとともに、12月に実施予定のアンケートについても紹介した。今後は、教育委員会として意見交換会を開催することも必要と考えている。
- ・ 学校施設のあり方については、校舎は市長部局、学校の運営は教育委員会という基本的な役割分担を踏まえて、お互いに意見交換をしながら、進めていきたいと考えている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の状況も見つつ、先進事例の視察も積極的に行っていってほしい。

- ・ 「施設一体型」の小中一貫教育の推進は、心配よりも期待が大きい。布佐地区は元々教育に関心が高く、地域のつながりも強い。布佐地区で子どもが減り、明るい話題が少ない中、市内でも先陣を切って検討がスタートすることに大きく期待を寄せている。「施設一体型」の小中一貫教育のイメージがわきにくいので、今後、視察を行っていききたい。
- ・ まず一度、授業風景を見て、意見交換をして、良いところを取り入れられるよう検討することが、来年度の目標と考えている。アンケートを実施してもイメージのわからない保護者も多いと予想される。説明会を実施する際には、イメージを伝えられるようなものにする必要がある。
- ・ 視察には、ぜひ学校現場で働く先生にも行ってほしい。
- ・ 教職員は県職員のため、旅費負担などの課題があるが、今後行けるような工夫をしていきたい。
- ・ 検討を進めるうえで、布佐南小学校の子どもたちの不安感や抵抗感をなくせるよう取り組んでほしい。
- ・ 説明会を行う際には、校舎のイメージ図など視覚的なものがあれば、イメージがわきやすいのではないかと。
- ・ 図面や写真を交えながら、先進事例を紹介することも検討したい。
- ・ 授業風景の映像を見せることも、一つの方法と考える。
- ・ ハザードマップをもとにした説明がとても分かりやすく、良いと思った。水害の問題について、理解を得ることが大事である。
- ・ 我孫子の子どもたちが将来どんな教育を受けることができるのかを見せられる良いモデル地区になると考える。意見交換をしながら、より良いものとなるよう進めていきたい。

## ■その他

次の項目に関し、情報提供を行った。

### ○ 新型コロナウイルス感染症への対応

感染者数は全国的に増加しており、市内居住者の感染者数も増えている。市では、患者が発生した保育園や幼稚園、小中学校、福祉施設の利用者で、保健所で濃厚接触者として指定されなかった場合にも、市で接触者と判断して希望者には集団検査を受けてもらえるよう、我孫子医師会と協力体制をとっている。その場合の検査費用は市が負担している。予算が不足した場合は予備費を充用して迅速に対応し、市民の皆さんの安全・安心の確保に努めて

いる。